

かみすげたささのおか

令和4年9月30日
上菅田笹の丘小学校
学校だより10月号



上菅田笹の丘小学校 学校教育目標
自分大好き 仲間大好き
心かがやく上菅田笹の丘小学校



「子どもの何を認めていくのか」

副校長 徳永 久美子

私が小学生だったころの授業や行事を思い出してみると、次のような感じでした。

「教室で、静かに椅子に座り、先生の質問に対して、その問いを理解し発表したい一部の子が挙手し発言する。」
そうやってどの授業も当たり前のように進んでいきました。先生や親の言うことを素直に聞いて、大人の意を察して動ける子が「いい子」とされていたような気がします。自分の意見を言わなくても、先に生まれた人たちに自分を合わせる事ができれば、社会の中で平穏に生きていけた時代だったのでしょう。

今、そのころと比べて時代は大きく変化しています。これからは、一つの型にはまらず、発想豊かに自分で考えて決めて動くことのできる子を育成していこうとしています。高度に機械化・AI（人工知能）化された世の中で、ただ指示を待つのではなく、出会った人たちと対話的コミュニケーションを取りながら自分で考え動ける力が、これからの時代には必要とされているからです。

この「対話的コミュニケーションを取りながら自分で考え動ける力」、言葉で言うことは簡単ですが、時に多様性を尊重し合うしんどさや、はっきりした正しい答えのないことに取り組むしんどさを伴うのではないのでしょうか？例えば、気が合わない相手に対して「自分の主張のみを強くする」とか、逆に「自分の意見を言わない」というコミュニケーションではなく、自分の意見を相手の立場に立って熟考し、対話をしながら解決策を見出す必要があります。また、よいと思って選択した方法がうまくいかなかったとき、改善策をさらに考えなければならないというしんどさもあるかもしれません。

でも、これらのしんどさは、「自分が認められている」環境下では軽減される気がしますし、時には充実した時間になるとも思います。学校・家庭・地域で「自分が認められる」環境をどのような方法で作っていったらよいか。日々考え、職員に発信していきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様も、心がけていることなどがありましたら、ぜひ教えてください。

さあ、10月末に開催される運動会の練習が本格的に始まります。「みんなと動きを合わせるためにどうしたらよいか」「なかなか上手な動きができないときに子どもたち同士でどう支援をし合って楽しめるようにするのか」子どもたちが対話的コミュニケーションをとりながら考えて動けることができるよう、私たち職員が意識をしていきたいと思っています。

第3回上菅田笹の丘小学校運動会に向けての活動を通して、子どもの心が動いたり、本番が楽しみになったりできるよう、応援をお願いいたします。